

名嘉地大屋とギジムナー

ギジムナーでいちよー、大樹^{うぶぎ}んけよー、赤^{あか}ひがー
 ぐわーがよー、シーメーぐわーパーパーグワーなてい
 よー、タバク吸^ふきんせーたんてい。木^きぬ中^{なつか}をうてい、
 夜^ゆぬ夜^ゆ中^な、タバクぐわー吸^ふち、明^あかがらすたんてい。
 潮^{すんじゃ}平^{むら}ぬ村^{むら}んけよー、くぬ、ギジムナーでいーしが
 よー、金^{うえ}持^きしみてーたんてい。あんしうまからじゃま
 なてい、うぬやな者^むのーうまから、出^でじらしんてい、
 名^な嘉^か地^ち大^う屋^{ふや}んかい渡^{わた}たくとう、あまーまた目^めに見^みてい
 金^{うえ}持^きすたんてい。

ギジムナーといって、大きな樹にね、赤鬚を生やし
 た者たちが、お婆さんや、お爺さんになったりして、
 タバコを吸っていたそうだ、樹の中で。夜の夜中に、
 タバコを吸って、明るくしていたそうだ。

潮平の村にね、この、ギジムナーが金持ちにしたそ
 うだよ。そしてその家でじゃまになつて、その化物は
 そこから出され、名嘉地大屋に渡って行くと、その
 家もまた、目に見えて金持ちになったそうだ。